



発行 福岡県社会福祉協議会
子育て支援事業推進室

〒816-0804
春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階
TEL 092-584-3785
FAX 092-584-3369
Email kosodate@fuku-shakyo.jp



行橋市 子育てサークルニコママ

できることから

ある地域に、どこからの支援の手も借りずに、お母さんたちだけで活動していた子育てサークルがありました。しかし、活動場所や遊具の確保が難しく、活動をしていくうえで相談できる場所を探して、社会福祉協議会に助けを求めました。相談を受けた社会福祉協議会は、サークルで困っていることや、これからやってみたい活動など、お母さんたちの声を聞き、一緒にサークル活動に取り組み始めました。今では、社会福祉協議会が和室を提供し、サークル専用の活動場所ができました。お母さんたちにとって、安心して情報交換したり、子育ての話をしたり、交流できる場所となっています。

子育て支援には、「これっ!」というのがありません。サークルに顔を出し、お母さんたちと話をしたり、一緒に季節の行事をしたりしながら、できることから子育て支援を始めてみませんか。

地域に密着した活動をしている、社会福祉協議会だからこそできる子育て支援を考え、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

(子育て支援事業推進室)

もくじ

- 平成20年度子育て支援モデル指定社協決定 …… 2
- みやこ町社会福祉協議会の取り組み …… 3
- こども写真館 …… 3
- 緊々ポ NEWS …… 4

平成20年度子育て支援モデル指定社協決定!! 充実する 社会福祉協議会の子育て支援



福岡県内では、子育て支援に取り組んでいる機関、団体がたくさんあります。現在、64市町村（両政令市を除く）のうち42の市町村社会福祉協議会が、子育てサロン・サークルの活動場所、遊具の貸出し、活動費の助成などの活動支援、子育て支援に関するイベント、研修会の開催などに取り組んでいます。

福岡県社会福祉協議会では、平成17年度から、子育てサロン活動に関わる市町村社会福祉協議会をモデル指定し、地域で開催されている子育てサロンの支援や、活動状況の把握を行っています。

モデル指定した社会福祉協議会では、子育てサロンの常設、子育てサロン同士のネットワークの構築、子育てマップの作成など、充実した活動が展開されています。

今年度は、継続社会福祉協議会を含む21市町村社会福祉協議会をモデル指定しました。これから地域に出かけ、子育て中のお父さん・お母さん、市町村社会福祉協議会職員と一緒に子育ての楽しさを伝える活動ができたらと思っています。

モデル指定市町村社会福祉協議会一覧

<p>平成17年度継続指定</p> <p>桂川町社協</p> <p><small>※平成18年度に、独立行政法人 福祉医療機構の助成を受けたので、平成20年度も継続指定します。</small></p>	<p>平成18年度継続指定</p> <p>柳川市社協 行橋市社協 那珂川町社協 志摩町社協 福智町社協 矢部村社協</p> <p>(6社協)</p>
<p>平成19年度継続指定</p> <p>久留米市社協 田川市社協 筑紫野市社協 宗像市社協 嘉麻市社協 苅田町社協 みやこ町社協 築上町社協</p> <p>(8社協)</p>	<p>平成20年度新規指定</p> <p>飯塚市社協 大川市社協 中間市社協 黒木町社協 広川町社協 大刀洗町社協</p> <p>(6社協)</p>

モデル指定社会福祉協議会の取り組み紹介



社会福祉協議会では、地域のお母さんたちと一緒に、楽しみながら子育て支援に取り組んでいます。今回は、その取り組みの一部を紹介します。

みんなで作った子育て支援マップ

～嘉麻市社会福祉協議会～

嘉麻市社会福祉協議会は、従来から開催していた「子育て支援講座」に加え、モデル指定を受けたことで、子育てマップ作り講座を開催することができました。子育てマップは、「どんなテーマで作りたいか?」「嘉麻市の子育てイチオシ情報は何か?」など、受講生みんなで意見、情報を出し合いながら作成されました。

受講生は、子育て真っ最中の方で、「親子で楽しく出かけられる場所を知りたい。」「子育てサロンやサークルの情報が知りたい。」といったお母さんたちの声がたくさん詰まった、情報満載のマップが完成しました。

また、マップ作りを通じて、これまでつながりなかった方との出会いがあり、ネットワークづくりにつながりました。



つながれ! 広がれ! サークルの輪!

～行橋市社会福祉協議会～

行橋市社会福祉協議会では、市内にある8つの子育てサークルの代表者に呼びかけ、サークルのネットワークづくりを目的に、交流会を開催。交流会がきっかけとなり、サークル合同運動会の開催へとつながりました。1つのサークルではできないイベントも、他のサークルと協力することで、開催できると分かり、お母さんたちの絆が生まれ、その後も交流は続き、各サークルの代表者が集まった子育てサークルニコまが発足しました。

サークルの輪ができたことで、各サークルでの悩み等情報交換ができ、活動の充実につながっています。



また、お母さんたちの自主性が生まれ、自らイベントの企画、講師依頼を行う等活発な活動が行われています。



お互いの特性を活かそう

～みやこ町社会福祉協議会、 勝山子育て支援センターと一緒に～

みやこ町社会福祉協議会では、勝山子育て支援センターと一緒に、子育て中のお父さん・お母さんを対象とした子育て講座、料理教室、絵本の読み聞かせ等を開催し、積極的に子育て支援に取り組んでいます。

両者が一緒に子育て支援に取り組むことになったのは、みやこ町社会福祉協議会が平成19年度に本会の「市町村社協子育て支援モデル指定事業」の指定を受け、子育て支援センターへ声をかけたことがきっかけ。

「みやこ町に住んでいる親子のために、社会福祉協議会と子育て支援センターが協力できれば、お互いの取り組みを補い合いながら事業を進められ、よりよい子育て支援ができるのではないかと思います。子育て支援センターに協力依頼へ行きました。」と社会福祉協議会の大川さんは話します。

料理教室に参加したお母さんは、「社会福祉協議会と子育て支援センターと一緒に子育てのイベントを開催しているので、講座の内容が似ていたり、開催日が同じになったりする事がないので、予定が立てやすく参加しやすいです。また、講座には、託児があり、子どもを保育士さんや子育て経験のある方が見てくださるので、安心して預けられとても助かっています。」と話していて、社会福祉協議会と子育て支援センターが子育て中のお父さん・お母さんたちのことを考えながら一緒に取り組んでいることが、しっかりお母さんたちにも伝わっているようです。

社会福祉協議会が子育て支援センターと一緒に子育て支援に取り組んで1年が経ち、「子育て支援センターが休館の時には、社会福祉協議会が事業を行うことで、お母

さんたちの新しい居場所づくりができたり、予算を出し合って話を聞いてみたい講師を招くことができたりと、お母さんたちの声を反映した子育て支援ができてきました。また、モデル指定を受けた当初は、自分たちの活動に不安もありましたが、子育て支援センターの先生と話し合いを重ねながら一緒に取り組むことで、安心して事業を進めていけるようになりました。」と大川さんは手応えを感じている様子。

社会福祉協議会や他の子育て支援団体が、一緒に事業に取り組むことは、子育て中のお父さん・お母さんにとって、自分たちの地域の子育て支援の取り組みが分かりやすく、参加しやすくなります。また、お互いに団体の特色を出し合うことで、より充実した事業展開につながり、子育てしやすい環境づくりの1つになります。

地域の子育てサロン、社会福祉協議会、ボランティアグループ、子育て関係機関、行政等お互いの特性を活かし、絶えず連携しながら活動できるといいですね。

子育て話に花をさせながら、料理教室を満喫中♪今日の献立は何か？



子どもが泣いても、いつもやさしく見守って、遊んでくれる託児スタッフさん

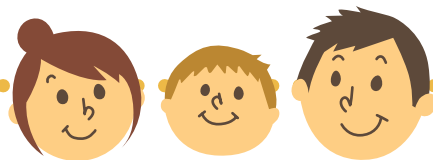


こども写真館



夏がすぐそこまで来ているよ！何してあそぼうかな？





福岡県社会福祉協議会では、お父さん・お母さんの仕事と子育ての両立を支援するため、厚生労働省から委託を受け、平成18年12月から、**ふくおか緊急サポートネットワーク事業**に取り組んでいます。

この事業は、病気で集団保育になじまない子どもの預かりや急な残業・出張などでの宿泊を含む子どもの預かりなど、緊急時に対応するもので、大野城市・太宰府市・春日市・筑紫野市・那珂川町を対象地区としています。本年度は、久留米市へ拡大していく予定です。

会員の声

依頼会員として、登録しているお父さん・お母さんは、「育児休業を終え、職場復帰したばかりです。子どもを保育所へ預けています。子どもが病気の時には、そばにいたいのですが、仕事を休むことができない時は、本当につらいです。これでいいのかと悩んでいます。」「子どもが病気になった時、子どものそばにいたい気持ちと、仕事に行かないといけないう現実で葛藤しながら働いています。」など、厳しい現実の中で、一生懸命仕事と子育てを両立しておられます。

実際に本事業を利用した依頼会員さんは、「朝早くにお願いしたので、引き受けてもらえるのか不安でしたが、早く子どもを預かっていただき、本当に助かりました。」と安心した表情をされていました。

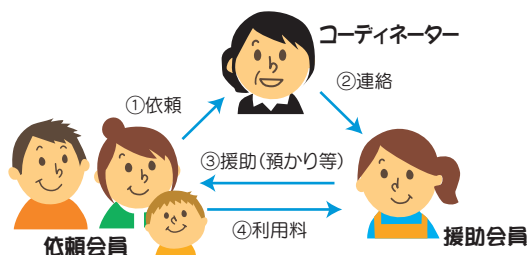
本会では、このような依頼会員さんの声を受け、仕事と子育ての両立を頑張っているお父さん・お母さんの力になり、子育てに喜びを感じてもらいたいという思いで本事業に取り組んでいます。

本事業の仕組み

本事業は、病児・病後児の預かりなど、子育てのお手伝いをしたい**依頼会員**と、お手伝いをしたい**援助会員**が、それぞれ会員となり、会員同士が助け合う相互援助活動です。

事業を利用するには、予め登録が必要です。依頼会員が安心して子どもを預けられるよう、事前に会員同士の顔合わせを行い、緊急時の対応に備えています。

活動の仕組み



ふくおか緊急サポートセンター(本部)

福岡県社会福祉協議会 子育て支援事業推進室
TEL 092-584-3785

現在の会員数(平成20年6月末現在)

依頼会員155人 援助会員80人 両方会員6人
(合計 241人)

この情報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。



大募集!

「ふくおか」に関する意見・要望、子育てサロン等へ取材依頼、子育てに関する様々なエピソードをお寄せください。皆さんの声をお待ちしています。

(子育て支援事業推進室)

「ぼくのおうちにあかちゃんをくだわろ。」
と書いていたそうです。その年、男の子には、弟が生まれました。そして、今年の七夕。
「ぼくのおうちにあかちゃんをくだわろ。」
男の子の短冊には、お礼の言葉がつづられていたそうです。子どもってかわいさ。子どもは、一生懸命お願いしたこととをちゃんと覚えていて、本当に純粋。子どもふれあうとき、大人が遊んであげているようだけれど、子どもから純粋な気持ちをもらっているし、私たち大人がいろいろなことに気づく機会を作ってくれているような気がします。子どもたちにもうった小さな気づき、大事にしたいです。

(かわかみ)



梅雨が明け、雲の形が変わり、虫たちの声がにぎわい、夏本番ですね。

子どもたちとのふれあいが増え、もちつき・豆まき・お花見などの季節の行事を楽しみながら、あらためて季節の移り変わりを感ずるようになりました。七月七日、七夕。ある子育てサロンの七夕会に参加して子どもたちと一緒に、私も笹の葉にお願いごとを結んでみました。今年は、星をも見ることができましたね。

ある保育園の先生から、七夕のとてもかわいらしい話を聞きました。この保育園でも、毎年大きな笹を用意して、子どもたちみんなでお願ひごとを書くとです。昨年、四歳の男の子が、短冊に、